

大田酒造

1892年に設立された大田酒造は、当初「白鷺」と呼ばれる一種類の酒を醸造し始めたが、現在ではさまざまな種類の酒を製造している。大田酒造では、山田錦、神の穂、うこん錦の3種類の米を使用している。山田錦は日本全国で使用されている非常に人気のある酒米である一方、神の穂とうこん錦はあまり人気がなく、三重県でのみ栽培されている。

20年前、伊賀が忍者の歴史を広め始めたとき、大田酒造は半蔵シリーズを導入した。伊賀忍者を率いた16世紀の武士である服部半蔵（1542～1596）にちなんで名付けられた半蔵酒は、大田酒造で最も人気のあるブランドになった。2016年、大田酒造は伊勢志摩サミットの参加者に「半蔵純米大吟醸 40 G7」を提供する栄誉を得た。大田酒造は、まだロゴに忍者のデザインを使用しているが、「忍者酒」の醸造元としての評判を超えて発展するために努力している。

大田酒造の新しい杜氏は所有者の息子であり、彼は柔らかく甘い味で知られている「&」（アンド）のシリーズを発売した。大田酒造は酒の世界ではあまりターゲットではなかった女性マーケットに開発に情熱を注いでいる。日本酒は長い間、男性の飲み物だと思われてきたが、大田酒造では、それをすべての人が楽しむべきだと考えている。